

6 プロジェクトの推進に向けた課題

6.1 プロジェクト① 石川 IC 周辺の交流拠点形成に向けた課題

沖縄本島の中央に位置し、沖縄自動車道や幹線道路が通っており、石川 IC は市内で唯一の IC となっている。北部や西海岸を訪れる観光客も多い一方で、石川 IC で降りた観光客は恩納村へ素通りしており、市内への誘客や立ち寄りを充分に取り込めていない状況にある。

石川多目的ドームで行われる闘牛大会は年間を通して一定の集客（全島大会では 3,000 名以上）はあるが、既存市街地への周遊による消費の促進に至っていない。石川多目的ドームは闘牛以外の興行での利活用の余地があるものの慢性的な駐車場不足が課題である。

石川地区社交街には様々な飲食店等が集積し、地域の西側には自然を活かした観光スポットが存在するものの、各地に点在しているため面的なつながりは不十分であり、その集積を活かした認知度の向上が課題である。

そのため、石川地域の玄関口（ゲートウェイ）としての立地を生かし、ワンストップする立ち寄り地を形成し、石川地域やうるま市内の魅力を新たな形で発信し、地域への来訪のきっかけを創出することが必要である。

6.2 プロジェクト② 石川庁舎周辺の利活用推進に向けた課題

石川庁舎周辺の背後地には、コンパクトな市街地に生活利便施設や飲食店が数多く集積しているものの、石川庁舎の駐車場は夜間に閉鎖しており、現状で市街地と石川庁舎周辺との関係性は低い。

石川庁舎周辺では既存公共施設の老朽化が進み、公共施設マネジメントの観点から再編が必要な状況であり、また、石川公園・石川ビーチ・ふ頭用地は海沿いの立地を活かした更なる利活用や適切な維持管理が望まれている。

そのため、石川庁舎周辺の立地ポテンシャルと地域資源を活かして、新たな魅力ある賑わい拠点を形成して、石川地域の市街地やうるま市内への滞在・周遊を促し、地域活性化を図ることが必要である。